

2013年度(平成25年度)事業報告

組織運営に関する事項

(1)理事会・評議員会の開催

- | | | |
|----------|-------|-------------------------|
| ○第1回評議員会 | 5/11 | 定款第21条(決議の省略)による評議員会を開催 |
| ○第2回評議員会 | 6/27 | 中京青少年活動センター |
| ○第3回評議員会 | 3/19 | 定款第21条(決議の省略)による評議員会を開催 |
| ○第1回理事会 | 6/10 | 中京青少年活動センター |
| ○第2回理事会 | 8/22 | ウイングス京都 |
| ○第3回理事会 | 11/18 | 中京青少年活動センター |
| ○第4回理事会 | 3/13 | ウイングス京都 |

(2)人事交流

(公財)京都市国際交流協会と2年目の人事交流となるが、諸事情により1年間出向を休止した。

(3)KES認証の継続

2008(平成20)年5月に受けたKES(ステップ1)の認証を継続(確認審査合格)し、環境負荷の軽減を意識した法人・施設運営に努めた。

- 認証後、初めてとなる各事業所のKES担当者会議と全職員へのアンケート調査を実施した。その結果、各職員の環境意識の向上は見られたものの、利用者や市民に向けた啓発が弱いという課題が見えてきた。次年度に改善していきたい。
- 環境負荷の少ない施設運営に関しては、協会の「財政非常事態宣言」もあって、各事業所が光熱水費の節減などに積極的に取り組んだ。

I. 自主事業

京都市からの補助金及び協会自主財源を原資として以下のように実施した。主な取り組み内容は、若者の市民参加促進の事業，“若者に届く”情報発信，戦略的な広報，それらの課題を追求するための調査研究及び組織マネジメントの仕事である。

1. 情報発信事業(旧リーダーバンク事業)

「青少年が地域活動に参加していくための機会づくり」を目的として下記の取り組みを実施した。

①社会参加情報の提供「ボランティアニュース」の発行

○主に10代をターゲットにボランティア情報を提供した。また中学生年代に社会参画の機会提供となるようイベント情報も掲載した。

*年3回発行(143号～145号)各10,000部。年間情報提供数101件。情報提供団体16団体(新規6団体)38件。

②高校生がメディアを使って意見表明する機会の提供「the keys !」の発行

○高校生年代が想いをカタチにし主体的に発信する情報誌とブログの発行を支援した。高校生スタッフが企画，取材，原稿作成・デザインなど全てを行い発行した。年2回発行(11月/3月)。各2,500部。

*22号「今話題のインディーズアーティスト 水瓶にインタビュー」「高校生社長に突撃」他

*23号「震災×京都」「友人関係アンケート」他

③青少年団体，青少年の支援に関わる団体との交流・情報交換会の開催

○各団体の広報研修と，相互の交流を図るための場として実施した。①2/17②2/22

④青少年活動センター登録グループの情報の受発信

○センター登録グループ，青少年育成団体の情報をウェブサイトにも今までよりもわかりやすく公開していくため，予約電子化システムと連動させて仕組み作りを行った。

○グループ登録共通化を開始し，輝く学生応援プロジェクト「学生PLACE+」と施設情報について共同アピールを行った。

2. 市民参加促進事業

青少年が「市民社会」の主体となる“市民”としての経験・学習の機会提供を目指す。地域参加，市政やまちづくり，青少年活動センター運営への参画を進める取り組みを実施した。

①市政参加・まちづくりのための取組

○京都市青少年モニターの青少年が考えた市政プランをロビーに掲示，センターに来た若者に良いと思うプランを選んでもらう企画を行った。青少年モニター制度の紹介もあわせて行った。(3/24～3/30)

②「スタートライン」社会課題について主体的に取り組むグループ支援

○学習支援団体「apolon」との中3学習支援事業運営活動の場提供，研修実施，運営フォロー

○青少年グループ登録団体「Rabbits Program」とのあたりまえじゃない生き方実践講座事業運営。企画会の実施，講座運営ノウハウのフォローと実践機会の提供

③高校生のまちづくり活動体験「ユースACTプログラム」への参画

○シチズンシップ共育企画・ユースサービス協会で協働事業として実施。9月～2月のプロジェクト「インターンシップコース」，「企画コース」，「調査研究コース」の3コースで実施した。高校生8名。活動報告会：3/30には神奈川，島根からも聴講者あり。

3. 青少年関係団体のネットワーク形成事業

①青少年グループ・育成団体・NPO事業への共催・後援

○チャイルドライン(子ども電話)事業に共催(NPO法人チャイルドライン京都が運営)した。

○青少年育成関係団体の主催する事業に共催した。(一覧別紙)

○京都市の「輝く学生応援プロジェクト」事業で設置された「学生PLACE+」運営に参画した。

*ユースビジョン及びきょうとNPOセンターと共同運営を行った。

○青少年グループ，希少ニーズにかかわる活動グループ，育成団体の事業に共催，協力した。

<共催事業>

事業名	主催
声優養成講座	特定非営利活動法人 キンダーフィルムフェスト・きょうと
京都×アフリカ～身近なアフリカを感じてみよう～	独立行政法人 国際協力機構 関西センター
チャイルドライン京都	特定非営利活動法人 チャイルドライン京都
こどもCity ミニ京都@だいが	京都市醍醐いきいき市民活動センター
たちばな倶楽部(日本語教室)	たちばな倶楽部
そでふれ教室	京炎そでふれ!京踊華
地域活動ボランティアあそび隊	地域活動ボランティアあそび隊
京都中央地区BBS会 アフタースクール	京都中央地区BBS会
Dance School「Swish Kid's」	MIHOダンスファクトリー
子育てサロン「わんわんキッズ」	子育てサロン「わんわんキッズ」運営委員会
はじまるさろん	地域若者サポーター 伏見ブロック
♪あんだんて♪10周年記念シンポジウム『不登校中の子どもたちから、先を歩いている先輩たちへの100の質問』	親子支援ネットワーク♪あんだんて♪
Enjoy Double Dutch	京都府ダブルダッチ協会
下京歩歩塾	下京歩歩塾運営委員会
第37期しもせいバレーボールリーグ	リーグ運営委員会
レクリエーション・インストラクター養成講習会	京都府レクリエーション協会
ふれあいファミリーフェスタ in KYOMO	下京区ふれ愛事業実行委員会
日・タイ・カルチャー・フェア	NPO法人 日本タイ教育協会主催
スタディプレイスふしみ	ステディプレイスふしみ
やましなふれあい手話初心者講座	山科区社会福祉協議会
山科ユースアクション2013	山科区社会福祉協議会
みかんマルシェ	カフェ蜜柑
ピザパンとケーキ作り&試食・カンパ	特定非営利活動法人ARU
ユースACTプログラム	シチズンシップ共育企画
伝記作成プロジェクト継続編 北区の歴史的変遷を辿る～世代間をつなぐ地図作成プロジェクトについて～	北区ちずプロジェクトメンバー
山科を紙芝居で語り継ぐ	やましなを語り継ぐ会
おしのびばとる	SINOBI
スマイルミュージックフェスティバル	特定非営利活動法人 風の音

<後援事業>

事業名	主催
パワハラやセクハラなどによる精神疾患を職場から出さないために	NPO法人 あったかサポート・社団法人京都勤労者学園
第3回AIDS文化フォーラムin京都	AIDS文化フォーラム in 京都運営委員会
京都やんちゃフェスタ2013	京都市保健福祉局 子育て支援部児童家庭課
不登校・ひきこもり解決セミナーin京都 「効果的な子ども・若者支援とは～不登校・ひきこもりを知る～」	一般社団法人社会適応支援協会 一般社団法人不登校支援センター

<協力事業>

事業名	主催
摂食障害の当事者グループ活動	かなりあ京都
スタディプレイスふしみ	スタディプレイスふしみ
めくるめく紙芝居2012	めくるめく紙芝居実行委員会
NA(ナルコティクス・アノニマス)響グループ	NA響グループ (※NA=薬物依存者の当事者活動)

②広報誌『ユースサービス』の編集・発行

○第16号から第18号を年3回各3,000部発行。関係団体や個人、学校・大学公共施設及び、厚生労働省、内閣府他の全国の関係機関に配布した。

- * 第16号/8月 特集「立ち上がる若手起業家たち」
- * 第17号/12月 特集「ユースシンポジウム2013～若者がいま/未来を語る」
- * 第18号/4月 特集「やっぱり就職問題 「なに悩む新4回生」 京の大学生100人に聞く」

③関係行政機関・関係団体への協力(協力事業)

協会のもっている“資源”をもって、外部機関・団体との連携・協力を行った。それによる対価は事業収入として確保した。

○震災・支援活動のネットワーク・情報交換、援助活動に協力/特に要請がなく、実施無し。

○外部機関・施設などへの委員等として参画・協力した。

- * 京都市社会福祉協議会(評議員)
- * 京都市青少年活動推進協議会(委員/専門委員)
- * 福祉ボランティアセンター(企画運営委員)
- * 京都市児童生徒登校支援連携協議会委員
- * 吹田市青少年センター(評価委員)
- * 京都市子どもを共に育む市民憲章推進委(委員)
- * 京都市HIV感染症対策協議会(委員)
- * 京都市子ども子育て会議(特別委員)
- * 京都市児童館学童連盟(理事)
- * 京都府レクリエーション協会評議員
- * 人づくり21世紀委員会(幹事/副幹事長/行政区ネットワーク委世話役他)

○「AIDS文化フォーラムinきょうと」実行委員会への参画

実行委員会に参加するとともに、開催当日(10/5-6)に「若者の性と生を考える」ワークショップを企画運営した。

○「京都アートフリーマーケット」への協力・共催

- * 若手造形家・活動者の作品の展示販売に協力し特別会場を設置した(9/21-23, 3/21-23)。
- * 青少年グループや福祉団体に協力してもらい、広報ブースなどを設定してもらった。

○全国若者支援ネットワーク機構への加盟・協力

若者支援に関わる団体の全国ネットワークに協力し理事を派遣した。

○外部機関・施設などからの依頼に応じて、企画提供や講師派遣などの協力を行った(主なもの)。

- * 立命館大学大阪オフィス講座(11/27:講師)
- * 「豊田市青少年センター・ユースサポーター養成講座」(9/8:講師)
- * お茶の水女子大社会教育主事講習(10/27:講師)
- * 市立学校教員選考試験(8/25:民間面接員)
- * 府立朱雀高校定時制教職員研修(12/12:講師)
- * 天理市ユースアドバイザー養成講習会(1/21:講師)

○少年非行の減少や軽減につながる取組での連携

スクールサポーターの活動に協力する(センターを使って少年との面談)とともに、非行少年の立ち直り支援活動の場を提供した(北センター:地域清掃)。

○大学コンソーシアム京都連携科目「ユースサービス概論」を開講(立命館大学と共同)した。

④ユーススクエア高辻(元格致小学校)の運営

○元格致小学校校舎(3F)を青少年活動センター事業等(主にミーティング等)に活用した。併せて、地元の夏祭り(「格致まつり」等)に従来通り協力した。

4. 事業企画・運営体制の充実

①企画委員会の運営

協会の新たな事業課題への取り組みの在り方について、現場ワーカーも含めて検討・試行した。

○「若者と雇用」タスク

“就労に不安をかかえる若者”について、キャリア支援の場や、日々若者とかわる中で見えてきた課題について整理を行い、社会貢献型の就労支援プログラム(独居高齢世帯への配食と見守り支援)を立案した。

○「10代の若者を巡る課題検討」タスク

主な働きかけの対象として高校等の中退する若者を考え、その予防や中退後のサポートにつながる取組プランを検討した。

<委員会の開催日程・活動日程>

月 日	内 容	検討事項・作業詳細
2013. 5. 13	委員会	今後の委員会の進め方について検討
2013. 10. 24	委員会	今後の委員会の進め方について検討
年間	タスクチーム	ミーティング及びリサーチをタスク毎に進めた。

<企画委員一覧>

斎藤 真緒	立命館大学産業社会学部准教授	知名 純子	まるいクリニック医務部長/PSW
川中 大輔	シチズンシップ共育企画代表	村田 博信	京都市教委生涯学習部首席社会教育主事
谷口 肇	京都事務所法務教官	幸重 忠孝	幸重社会福祉士事務所代表
石山 裕菜	同志社大学院生(博士課程)(2013年8月から)		

①スーパーバイザーの委嘱

- 現場スタッフを支え、業務の質的な向上をはかるためにスーパーバイザー(山本智也氏:京都ノートルダム女子大)を委嘱し、年間を通してコンサルテーションが受けられる体制を作った。(17回実施)

②事業評価の実施

- 前年度に整理した評価サイクルに即して、年間を通じた事業の評価を実施した。
*外部関係者も含めた評価ヒヤリングを行い全事業所事業を評価(1/13)。次年度事業計画立案につなげた。

③寄附・協賛獲得プロジェクト自主財源の拡充

- ユースシンポジウム、LIVE KIDS等で試験的に寄附獲得の取り組みを実施、次年度事業に寄附、協賛獲得を前提に盛り込んだ事業計画を立案した。

④「中間的就労」の場づくり(自立支援につながる新たな取り組みの試行)

- 若者サポートステーション、青少年活動センターが共同して、4月から「野菜づくりから仕事に近づく」を実施した。参加者(4人)に就労や社会参加に向けた変化を確認できた。
- 上記に続く新たな事業を検討。継続的な運営と収支バランスの見込める事業として、公共施設での食堂運営を考えたが、初期投資等の金額面を含めた不安定要素が大きいとの判断から断念することとした。変わって、企業との協力・連携による中間就労の場を模索している。

⑤予約・台帳の電子化

- 予約電子化については、中京において仮運用をスタートさせ、システム、運用についての細部を詰めながら、次年度中に本格運用できるよう作業を進めた

5. 調査・研究事業

①ユースワーカー養成に関する立命館大学との共同研究

- アカデミックベース強化、資格制度作りに向けた研究協議を継続して行った。
定例的に実践者からのテーマに即したレポートを受けて議論する研究会を開催した(隔月1回程度)。
*共同研究メンバー
(立命側)野田正人氏・荒木寿友氏・小西浩嗣氏・斎藤真緒氏・中村 正氏
(協会側)遠藤理事長・水野・大場・松山・横江
*公開研究会を開催(「若者の何が“問題”か?」講師:中西 新太郎氏(横浜市立大)。(11/2)
- ユースワーカー養成の在り方の検討及びテキスト作成。
*外部研究者の研究チーム(以下)に参画しワーカー養成の在り方についての研究を進めた。
*テキスト作成は下準備のみで終わった(次年度継続)。

②ユースワーカー養成プログラムの実施

- 大学院(応用人間科学研究科)でワーカー養成コースを共同運営した。
(概論)3人受講/(演習)3人受講
(実習)2人が伏見・山科センターで3~5ヶ月の実習を行った。
- ユースワーカー資格取得プログラムの実施(別掲=受託事業で実施)

③外部機関・研究者との共同研究

他都市での実践や専門職養成についての調査・研究に加わり、ユースワークについての検討を進めた。

- 「貧困に対する子どものコンピテンシーをはぐくむための福祉・教育プログラム開発」の調査に協力した。
 - * 大学卒業後の進路不安定者に関する調査に協力(研究代表:同志社大学理橋孝文教授)。
- 「子ども若者支援政策とSocial Pedagogy」研究調査(代表:法政大平塚教授)に参画(研究協力)した。
 - * 海外調査(デンマーク・イギリス・フィンランド)にワーカーを派遣(9/3-15)した。
 - * フィンランド視察コーディネーター・札幌・京都のユースワークに取り組むメンバーで「評価方法」について共有。(1/10:ユースワーカーによる実践評価学習会を京都で開催)
 - * 海外研修後研究会及び東京のエルク・アカデミー・NIRE・文化学習協同ネットの視察(1/11-12)
- 子ども若者支援専門職員養成研究への協力
 - * 奈良教育大の生田教授を代表とし社会教育研究者による研究会に参画(研究協力者)した。「子ども若者支援士(仮称)」養成に向けた調査・検討に参画した。
- その他
 - * 評価学会(参加型評価研究会)(6/1)
 - * 「対人援助職の専門職アイデンティティとジェンダー」科研費研究会(9/18-19:研究発表)

④職員研修の計画・実施

- 研修プロジェクトを運営し年間研究計画に沿った研修を実施した。今後の組織基盤強化に向けて計画的な人材養成に向けた取組を進めた。
 - * 新人職員研修(①職員・ワーカーとしての基礎 ②現場での実践記録を作成しSVを受ける)
 - * 若手職員研修(3グループに別れてワーカーとしての基盤となるスキルについて研修を実施)
 - * 外部派遣研修(多様な研修機会に職員を参加させた)
 - * 所長・管理職を対象としてマネジメント研修を実施(セクシャルハラスメント研修等)。
- 子ども若者育成支援推進法関連業に対応した取り組みのための職員研修を進めた。
- 職員による事例研究会を定例開催した(年間10回)。
- 全職員が参加する「全体研修会」を実施した(6/12)。
- ワーカーの職務基準づくりについて検討。ワーカー養成のレベル等標準モデル案を作成した。

II. 協会受託事業

協会事務局と中京青少年活動センターを一体的に運営し、7ヶ所のセンターの中核的な機能を果たした。子ども若者支援室・若者サポートステーションと連携を図りながら、成長への機会提供及び課題を持つ青少年への包括的な支援を目指し、中京センターは施設特性を生かした事業に取り組むとともに、センター間連携に関わる事業の調整・実行管理を事務局と一体的に行った。

1. 青少年の交流促進事業(青少年と青少年に関わる多世代が交流できる場づくりの事業)

①ユースシンポジウム「若者がいま未来を語るユースセッション」の開催

- 若者が発信できる場づくりをしようと、何かしらの活動をしている若者が自らの思いを語れる場をつくった。「対話」をキーワードに来場者や参加協力団体のメンバー同士が互いの思いに触れながら自らの思いも深めていける場となった。参加者数209名。参加協力団体35団体。
 - * 第1部:全体トークセッション「若者が社会とつながる瞬間」
 - * 第2部:①トークフリマ②ブースコーナー③セミナー
 - * 第3部:交流会(自由参加)

②音楽とダンスの祭典「ライブキッズ24回大会」の開催

- 3月16日に本大会を実施。前日には、出演者DANCEチームの場当たり、MUSIC部門のバンドレッスン、出演者・スタッフ・制作関係者との顔合わせ及び交流会を実施。その機会をきっかけに、特にMUSIC部門では大会後も出演者同士の交流が続いている。
- また、右京ふれあい文化会館のロビーにて、スタッフ企画のブースや当協会・青少年活動センター紹介ブース・掲示物、関係団体・協力団体のブース、保健センターのブース出展を行った。
- 資金調達のため物販販売を企画し、新風館・大会当日ともに物販スペースを設置した。また寄附金・募金コーナーも設けた。(募金20,451円・物販26,300円)

- 地域若者サポーターとの連携として、大会当日に同会場でサポーターの研修後、LIVE KIDSへの協力を得、サポーターによる喫茶コーナーを行った。
- スタッフは、日頃のミーティング運営、当日に向けた準備・練習や広報(開催・出演者。スタッフ募集)、広報物等のデザイン、映像制作等を主体的に行った。また今年度あらたに、「選考基準プロジェクト」・「広告協賛獲得プロジェクト」をスタッフ自ら作り、出演者選考基準の見直しや、資金調達について力を注いだ。(ボランティア登録数:38人)
 - *スタッフ募集:9月24日・10月1日説明会
 - *出演者募集:10月中～DANCE 12月10日・MUSIC 1月20日
 - *選考:MUSIC 1月27日・DANCE 1月31日
 - *LIVE KIDS in 新風館:1月18日19日

2. 担い手育成に関わる事業(指導者養成事業)

青少年活動センターで活動するボランティアスタッフや、利用グループのリーダーなどを対象とした研修、地域において若者の成長支援を担う専門スタッフ養成のためのユースワーカー養成を行った。

①ユースワーカー養成・資格認定事業

- 養成講習(8月及び3月)、資格取得コースの第9期・第10期を実施した。

②インターンシップ/各種実習の受入れ

- 京都女子大学『社会教育実習』受け入れ, 10月中頃より開始。(北センター3人・中京センター1人・東山センター2人・山科センター1人・南センター2人)
- 京都女子大学『社会教育基礎実習』受け入れ, 10月中頃より開始。(東山センター4人)
- 立命館大学VCTP実習生受入れ (東山(中止)・南センター1人・中京センター1人)
- 京都女子大学インターンシップ(東山センター2人)
- 京都芸術デザイン専門学校(下京センター2人)

なお、大学コンソーシアム京都・京都橘大学インターンシップ受入れは2013年度該当者がなかった。

3. 相談・情報提供・支援事業

「子ども・若者育成支援推進法」に規定されるワンストップ窓口として、「子ども・若者総合相談窓口」を青少年活動センター内に設置しており、ニート、ひきこもり、不登校等、社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者やその家族からの相談に対応した。また、ロビー等を活用して若者に特有な話題を気軽に語り合うことのできるカフェ形式の事業や居場所プログラムを充実させた。

①総合相談窓口の充実(支援事業と一体的に運営＝別途記載)

②相談事業の全体調整・体制の強化

- 各センターに「支援連携担当者」置き、支援室、相談リンク機関他との連携を強化した。

③若者を巡る社会課題に対応した取組の実施(セクシャルヘルス関連事業)

- エイズ予防財団の助成金を活用し、センターを横断した事業展開を行った。センターへのアクセスが難しい、特に社会的な資源が届きにくい若者へのセクシャルヘルスライツの保障を目指し、関係機関、団体と連携し取り組んだ。

4. 広報事業

①広報戦略の検討・開発(広報戦略プロジェクトの運営)

- 若者にとどく広報の戦略をプロジェクトチームにより検討・実施した。
 - *全事業所に広報計画の策定を課すとともに、それに基づく広報コンペを実施。
 - *広報先データベースの更新。(新規広報先の開拓, データ収集, 整理)

②インターネット(ウェブサイト)の活用HP(インターネットホームページ)の運用

- 全センター統一した部屋の空き状況を閲覧できるWEBページ, 事業や施設等について問合せしやすいフォームを作成, 公開した。WEBサイトからの問合せが月20～30件を数えるようになった。
 - *各事業所のホームページの閲覧分析結果を月初に定期配信。
 - *「WEB担当者研修」,「寄附金獲得のための広報研修」,「Facebook活用出前研修」を実施。

5. みさやまグローバル事業

若者を巡る課題を広い視野で考えながら京都という街を意識した取組を実施した。

①あたりまえじゃない生き方実践講座

高校生青少年グループ「RABBITS PROGRAM」の企画運営協力を仰ぎ、公募による企画会を実施した。高校生社長、通信制高校のキャリア教育、社会起業などに取り組む人をゲストに招き、その生き様を語ってもらい、参加者同士の意見交換の場をつくった。高校生年代から既に企業をしている20代後半まで多様な層の参加があった。

②こころみプロジェクト「みさやまワークショップ」パイロット事業

今年度は実施せず。

③若者とライフデザイン

7センターで特に先駆的な視点を取り上げ、アンテナショップ的に事業を展開実施していく。今年度は「メディアリテラシー」をテーマとして取り上げ、段階的にテーマを深めていく形で企画、第1フェーズとして下京センターにて「メディアを活用した表現力を伸ばす講座」を実施した。

6. 居場所づくり支援に取り組む

①「街中コミュニティ」の実施

○不登校、ひきこもり、対人関係に不安があるなど、課題をかかえる青少年を対象に、自他と向き合い、互いに交流できる居場所、コミュニティ形成の場を提供した。子ども・若者支援室、サボステからのリファーを受け入れ、常時担当者と情報交換をしながら進めることで、グループ体験の場を活かして使ってもらえるよう連携を図った。(居場所の段階別機能1・6)

*毎月2回(第2・第4金曜)開催。実習生・ボランティアの協力を得て実施した。

②ロビーをつながりのある、居心地の良い空間にする。(ロビー空間を使った交流プログラム)

○「赤れんがCafe」を中心とした地域若者サポーターの活用

7月から3月までロビー利用者同士の交流の場を実施。(サポーター7名、参加者数111名)

○「あったCafe(カフェ)」の開催

4回利用者との交流の機会として実施。

○「みさやまギャラリー掲示板」

ボランティアの協力や職場体験の受入れを得て実施。毎回テーマをもって利用グループメンバーやロビー利用者、自習利用の若者などの参加で交流した。

○「何でも質問BOX」の設置

日頃疑問に思っていることや悩んでいることを対面ではなく質問用紙に記入し、投函してもらい匿名相談を実施した。軽いテーマから性や恋愛、友達付き合い、進路などに関わる悩みの吐露まで幅広い“質問”があった。

7. 地域交流・連携・参画事業

○継続的な地域活動としての取り組み

人づくり・21世紀委員会(中京ネットワーク実行委)中京ふれあいまつり、中京ふれあいトーク

○区内中学の「生き方探究チャレンジ事業」インターン受入れ

北野中学校、光華中学校生徒受入れ。

○育成委員会を再編し総会を開催した。(9/13)

○中京「中3学習支援事業」(かけはし)

経済的問題を抱えた家庭で育つ中京区の中学生(3年生中心)を対象に、学習会「かけはし」を実施した。学習支援団体Apolonの協力を得て開催した。(7月より毎週1回金曜日)

○少年補導委員会による非行対策事業に協力し事業委託を行った。

8. 利用促進・「居心地の良い」施設提供のための取り組み

①トレーニングジム関連

○ボランティアコーチ(アドバイザー)を配置し、トレーニングジムの安全な利用のためにガイダンスを実施した

○ジムの運営及びガイダンスの実施

*トレーニングジム利用者を対象に、ジムの安全利用を目的としたガイダンスを行った。(月2回)

*雨漏り対策として壁面工事实施(12-3月)。

*ガイドンスの実技指導はボランティアコーチ(登録5人)の協力を得た。

②利用しやすい“入り口”となるスポーツ事業(ヨガなど=自主事業)の実施

○ヨガ, ボクサネス, ダンスなど7教室(年間4クール, 各3~11回程度)を実施した。

事業一覧(自主事業及び中京センター事業)

<自主事業>

事業分野	事業名	日程	回数	参加数/のべ数		備考
1. 情報発信事業	ボランティアニュース	年3回発行	3	—	—	10,000部発行
	the keys!	年2回発行	2	7	—	2,500部発行
	広報誌「ユースサービス」	年3回発行	3	—	—	3,000部発行
	育成団体交流会	2/17, 2/22	2		28	23団体
2. 市民参加促進事業	ユースACTプログラム	10/21~3/1	19	8	59	school of ACT
	市民力アップ掲示板	3月			56	
3. ネットワーク形成事業	ミニ京都(洛西)	11/24, 25	2	6	132	
	グループ共催/かなりあショップ	毎月	12		46	
	『持続可能な対人援助者をめざす若者のための 知っとこミーティング』	9月	4	14	42	AIDS予防財団助成事業(中京実施分)

<協会受託事業>

事業分野	事業名	日程	回数	参加数/のべ数		備考
1. 指導者養成	YW養成講習会①	8/24, 25	2	17	33	
	YW養成講習会②	3/1, 2	2	18	36	
2. 青少年の交流促進	ユースシンポジウム	9/29	1	209	492	ボランティア含む
	ライブキッズ(新風館)	1/18, 19	2	258	700	新風館
	ライブキッズ(右京)	3/16	1	229	1,500	右京ふれあい文化会館
3. みさやまグローバル	“あたりまえ”じゃない生き方実践講座	6/20, 8/22, 11/25, 3/20	4	32	36	ボランティア含む
	何でも質問Box	通年		—	75	
	あつたcafe	月~2月	4	137	102	
	街中コミュニティ	4月~3月	24	24	165	ボランティア含む
4. 居心地のよい施設提供 (スポーツ事業)	フリースタイル①-②	年間2クール	20	27	195	
	ヒップホップ①-④	年間4クール	40	39	321	
	すっきりヨガ①-②	年間2クール	20	24	183	
	ボクサネス①-④	年間4クール	32	32	160	
	ベーシックヨガ①-④	年間4クール	39	105	739	
	ハワイアンフラ初級	10-11月	6	7	22	
	ミニボールエクササイズ	11月	3	8	22	
	インディアンヨガ	10月	3	7	10	
	ジムガイドンス	通年		159	159	
その他	フリータイム	通年			629	
	自習室	通年			2,540	

Ⅲ. 子ども・若者支援事業及びその他受託事業

1. 京都若者サポートステーション事業・・・若者の社会的・職業的自立を支援する

一定期間無業の15歳から39歳までの若者に対し、職業的自立に向けた支援を行うため、厚生労働省及び京都市から委託を受けて運営した。今年度、従来続けてきた事業の見直し、学校連携事業の充実、支援が途切れている利用者への様子伺いの強化を行った。進路決定者は141名であった。

-(1)居場所事業

2時間程度の就労を意識したプログラム・交流を中心とした振り返りを行った。今年度は目的意識を持って参加してもらうために、3ヶ月後の目標を設定した。また、烏丸御池ハローワーク内でハローワーク使い方講座を行った。

-(2)入口支援事業

- ①窓口インテーク:ユースワーカーがインテーク面談を行った。
- ②個別対応:緊張感が高く、なかなか専門相談につなげにくい利用者に対して、関係づくりを行いながら本人のニーズを見出すとともに、課題を抽出した。

-(3)専門相談事業

- ①キャリアの相談:火・金・土曜日実施
- ②こころの相談:月・水・木曜日実施 今年度より木曜日を4コマから5コマに増。
- ③保護者相談:第1木曜 第3, 4土曜日, 金曜日実施

-(4)就労体験事業(青少年活動センター他連携事業)

- ①アジプロ(南)(下京):センターを使った就労体験。体験し振り返ることで、強み及び課題を具体化する
- ②「野菜づくりから仕事に近づく」:農業を使った中間的就労。開墾から収穫、販売まで実施。参加者4名中4名が進路決定。
- ③「アジプロ」セカンド:宇多野ユースホステルで継続した就労体験を実施した。期間は一ヶ月間で週3回以上。
- ④「伝統食カフェ」:伝統食普及団体と連携し、昔ながらの郷土食を調理・販売し仕事の楽しさを味わってもらった。

-(5)就活支援事業

- ①「自分を知って仕事に就こう」
過去を振り返り、キャリアデザインを作る。最終日にハローワーク職員によるHWの使い方を指導してもらった。
- ②「インプロヴィゼーション・ワーク」(東山青少年活動センターで実施)。
- ③「緊張ってなに?リラクゼーションを知ろう」(リラクゼーションに関するセミナー):就職活動等でのストレスや緊張に対する対処法を身につけることを目的としたセミナーを実施した。

-(6)保護者支援事業「親こころ塾」

我が子との関わり方について学ぶことを目的とした講座を実施した。我が子への理解を深めるために保護者とひきこもり経験のある若者との交流会を併せて実施した。子ども・若者支援室との連携で運営を行った。

-(7)学校連携支援事業

中退予防の観点から市立高校には週9回訪問し、キャリア教育及び相談を実施した。また、府立高校(朱雀・桃山定時制)単位制高校(第一学院)や大学との連携(京都産業大学・精華大学・京都ノートルダム女子大学・大谷大学・立命館大学)を行った。

-(8)サポステ周知事業(出前相談)

京都京北町、ハローワーク七条、ハローワーク烏丸御池、京都産業大学で行った。ハローワークで行ったものは定員をオーバーし、キャンセル待ちの状態だった。

-(9)就活基礎力講座

- ①「キャリコロ〜対話力アップをめざそう」
対話力、聴く力、雑談の自信のアップを目指す。サイコロを転がし、出た目に対応するお題を参加者同士で話す。
- ②「イマココトレーニング」
ストレスを軽減するためのトレーニング。第3の認知行動療法といわれる“マインドフルネス”の練習を行う。

-(10)就労に関する出口開拓事業(出口開拓プロジェクト)

伏見区役所食堂での中間的就労できるように、民間企業と連携を組んで模索した。
企業と連携し、インターン後に就労へとつなげる流れを構築した。

-(11)その他

京都府内4サポステが集まり、会議を行った。主に学校連携事業などの情報交換を行った。また4サポステ合同でシンポジウムを実施した。

<行事一覧>

行事名	実施期間	回数	のべ参加者	備考(実施場所等)
(1)居場所事業				
ちよつと体験ちよつと交流	通年	31	94	本人のみ
(2)入口支援事業				
		計	2,636	
窓口相談(インテーク・個別対応の合計)		-	1,757	
メール・電話相談		-	879	
(3)専門相談事業				
		計	884	
こころの相談	通年	-	457	サポステ・ジョブパーク
キャリアの相談	〃	-	294	サポステ
保護者の相談	〃	-	133	南センター
(4)就労体験事業				
アジプロみなみ ①	6/10～7/29	8	3(22)	南センター
アジプロみなみ ②	9/24～11/11	8	3(24)	南センター
アジプロみなみ ③	1/20～3/10	8	3(24)	南センター
アジプロしもぎょう ①	8/27～10/1	7	4(23)	下京センター
アジプロしもぎょう ②	11/12～12/17	7	3(21)	下京センター
アジプロセカンド	12月	12	1(12)	宇多野ユースホテル
野菜作りから仕事に近づく	5/7～9/8	64	4(233)	(サポーター含まず)
伝統食カフェ	1/9～30	6	2(10)	伏見センター
ARU ピザ&ケーキ	8/20～(月2回)	13	(10)	共催事業
(5)就活支援セミナー				
自分を知って仕事に就こう ①	9/10～10/18	4	14(40)	中京センター(ハローワークへ行こう含む)
自分を知って仕事に就こう ②	1/28～2/13	3	10(24)	中京センター
緊張ってなに?	12/21・22	2	7(14)	中京センター
インプロビゼーションワーク	11/5～12/17	7	8(36)	東山センター
(6)保護者支援事業				
親こころ塾 ①	6/9～7/21	4	22(57)	中京センター(ゲストスピーカー含まず)
親こころ塾 ②	10/6～11/24	4	20(65)	
親こころ塾 ③	2/2～3/16	4	27(59)	
(7)学校連携推進事業				
中退者支援(学校訪問)事業		計	377	2,534
洛陽全日	通年	91	586	(本人のみ655件)
伏見定時	〃	69	72	
伏見全日	〃	65	8	
西京定時	〃	71	82	
セミナー	〃	57	1,712	4校合計
面接指導	〃		44	4校合計
その他学校連携数	〃	24	30	(本人のみ)
(8)サポステ周知事業(出前相談)				
		5	36	
(9)就活基礎力講座				
キャリアコロ	12月～3月	4	16	
イマココ	12月～3月	4	11	

2. 子ども・若者支援事業(指定支援機関受託業務及び総合相談窓口事業)

子ども・若者支援地域協議会において、支援の主導的役割を担う指定支援機関として、関係機関と連携のもと社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者の社会的自立に向けた総合的な支援に取り組んだ。また、2013(平成25)年10月より、中京青少年活動センターの子ども・若者総合相談窓口と子ども・若者支援室の機能を以て、ひきこもり地域支援センターとして位置づけられた。

-(1) 個別ケース支援(支援対象者等に対する相談、助言、指導及び支援の進行管理)

総合相談窓口や関係機関からリファーされた支援地域協議会による支援を必要とする対象者に対して、支援コーディネーターが相談、助言、支援のコーディネート及び進行管理等を実施。対象者の状況に応じて、住居やその近隣の施設への訪問支援(アウトリーチ)の方法も用いて支援を行った。

○年度中の支援ケースは95ケース(前年度からの継続:52ケース, 新規:43ケース)。

○支援を始めて6ヶ月経過した27ケース中, 19ケースで状況の改善が見られる。

前年度実績と比較すると, 改善率は69.0%から70.4%に微増。

○本人支援のためのアウトリーチは, 37ケース102回実施。うち家庭訪問は8ケース42回実施。

○ひきこもり地域支援センターとしての位置づけ, 専用相談回線の開設後には, 相談窓口の相談件数・ひきこもり相談の割合が増加するとともに, 協議会支援ケースも増加した。

-(2) 支援地域協議会との連携

必要に応じて, 個別ケース検討会議を実施するほか, 今年度より地域協議会に設置された課題別検討部会(ひきこもり支援チーム)における検討等を通して, 構成機関と連携しながら, 支援を行った。

○個別ケース検討会議を65ケース, 延べ340回実施(前年度は56ケース, 延べ165回)。1ケース辺りの回数が大幅に増加し, 進捗及び方向性の確認を継続的に行っている。

○代表者・実務者会議(2回)とともに, 課題別検討部会を2回実施。

-(3) NPO等民間団体の子ども・若者支援促進事業の実施 及び 関係機関・団体との連携

NPO等民間団体の支援事業に対して助成することを通し, その支援活動を促進するとともに, 指定支援機関とNPO等民間団体, NPO等民間団体相互の連携・協力の機会を設定した。

○下記9団体の事業について採択し, 助成。

親子支援ネットワークあんだんて/京都ARU/京都教育サポートセンター/恒河沙母親の会/社会適応支援協会/まちの学び舎ハルハウス/山科醍醐こどものひろば/勇気の出るライブ実行委員会/若者と家族のライフプランを考える会

○「講演会+NPO活動紹介・交流会」を実施(12/7)。定員80名を大幅に上回る147名の申込みがあり, 講演会・交流会を通して, 131名の参加があった。

○NPOの協力を得ながら, 子ども・若者支援の紹介動画の作成を開始した。子ども・若者支援, NPO等民間団体の取り組みについて, イメージしやすい動画をWEB上に公開予定(2014年6月完成予定)。

-(4) 協会内部資源の活用・連携

子ども・若者総合相談リンク機関として位置づけられている「若者サポートステーション」, 「青少年活動センター」と, 総合相談窓口・支援室とが密接に連携し, 子ども・若者の総合的な支援につなげようとしている。

○各青少年活動センターに支援連携担当者を置き, 月1回担当者会議を実施。支援連携の在り方について検討を進めた。

(窓口)若者サポートステーション, 青少年活動センターからの紹介による相談:32件

青少年活動センター, 若者サポートステーションワーカー・スタッフからの相談:27件

窓口から若者サポートステーション・青少年活動センターの紹介:78件

(支援Co.)支援ケースにおける, 青少年活動センター・若者サポートステーションの紹介:33件

-(5) ☆ピアサポーター養成・派遣事業

新たな事業としてピアサポーターの養成・派遣をNPOと協働で実施した。

○ひきこもり支援専門委員会において, 他機関・団体とともに現状についての情報共有, ピアサポーター養成プログラム実施, ピアサポーターの派遣について検討した。

○NPOに所属し, ひきこもり経験のある方を対象に, ピアサポーター養成プログラムを実施(9月~11月)。16名が参加し, 12名が修了した。

○1月より、ピアサポーターの派遣を開始。3ケース、延べ12回派遣を行った。

-(6)子ども・若者総合支援機能の発信

視察対応、外部での講演等の機会を通じて、子ども・若者総合支援とユースサービス協会全体の機能について広く発信に努めた。(視察・調査対応:10件/外部発表・出展:15件)

-(7)京都市ユースアクションプラン認証事業

青少年育成団体やNPO等が実施する、青少年を支援する取組に対して、「京都市ユースアクションプラン」の主旨に基づくものを京都市が認証し、活動を促進する。

- ユースアクションプランの趣旨に合致する取り組みの事業申請募集を行った(認証件数135事業)。
- ユースアクションイベントガイドを発行した(年2回/各25,000部発行,約300か所に配布)。
- WEB版のユースアクションプランイベントガイドを作成し、より効果的に青少年や関係者に届くよう発信した。

-(8)総合相談窓口事業(青少年活動センター指定管理業務)

「子ども・若者育成支援推進法」に規定されるワンストップ窓口として、「子ども・若者総合相談窓口」を中京青少年活動センター内に設置しており、社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者やその家族からの相談に対応した。

- ひきこもり地域支援センターの相談窓口として、専用相談回線を設置(2013年10月)
- 新規相談ケースは、441ケース。うち本人からの相談は139件(31.5%)であった。
相談内容は「ひきこもり」が37.2%と最も多く、その他にも多様な相談を受けている。
- 特に専用相談回線設置後の10月以降は、ひきこもり相談の割合が42.7%と増加しており、それにあわせて、地域協議会リファーマケースは上半期9件から下半期21件へと大幅に増加した。

3. 中学3年生学習支援事業の受託(京都市保健福祉局/福祉事務所)

京都市保健福祉局からの委託により、生活保護世帯において進学を目指す中学生(特に3年生)を対象として、学習支援を行う取組を実施した。BBS会及び地域のNPO等団体の協力を得て、大学生を中心とするボランティアが、中学生の学習や相談相手となりながら、学習支援を行った。保健福祉局・福祉事務所と協力しながら、2013年度は、新たに3地域(中京・醍醐・右京)で実施した。2014年度は、新たに1地域(左京)で実施を予定している。

<各地域での実施状況>

実施場所	参加者 (登録者)	ボランティア 及びスタッフ	実施曜日	実施の枠組み
北青少年活動センター	9	29	毎週火曜日	BBS会と連携
伏見青少年活動センター	15	25	毎週火曜日(10月から金曜日に)	BBS会と連携
山科青少年活動センター	18	23	毎週金曜日	NPOと連携
南青少年活動センター	4	5	毎週木曜日	単独運営
洛西(洛西境谷会館会議室)	33	18	毎週金曜日	地域団体と連携
中京青少年活動センター	9	25	毎週金曜日(6月末から実施,希望者は火曜日も実施)	学生団体Apolonと連携
醍醐(こどものひろば)	5	7	毎週火曜日(7月から実施)	NPOと連携
右京(山ノ内社会福祉会館)	13	12	毎週木曜日(10月から実施)	花園大学と連携

* 洛西での実施は下京青少年活動センターがボランティアのコーディネートを行うとともに、地元育成グループにコーディネーターを出していただいた。

* 醍醐での実施はNPO法人山科醍醐こどものひろば、右京では花園大学教員にコーディネートを依頼した。

4. 地域若者サポーター活用事業

- 定期的な情報提供(4回)
- 全体での交流会(研修会)の実施(2回)
 - 「“自分の思い”を言葉に乗せて伝える」講師:辰巳朋子氏(臨床心理士/スクールカウンセラー)
 - 「アイスブレイクとは？」講師:丹羽俊和氏(佛教大学非常勤講師/前・京都府レクリエーション協会副会長)
- 子ども・若者に関わる研修情報の提供(不定期)
 - ユースシンポジウム, ユースワーカー養成講習会など, 学びの機会の情報を提供した。
- 各ブロックと協働の取組を実施した。
 - 各青少年活動センターに担当ワーカーを置き, 各ブロックと若者の居場所作り支援・世代間交流につながる事業を企画, 実施した(共催)。
- 伴走型の就労支援についての学習会を開催(オープンセミナー)
 - * (NPO)青少年就労支援ネットワーク静岡の取組について学ぶ学習会を開催した。講師:津富宏氏(静岡県立大学教授)
- サポステ登録をしている若者と就労先とのマッチング(橋渡し)
 - * 自身の身の回りにあるアルバイトの機会を提供, もしくはアルバイト先とのマッチング(橋渡し)をしていただいた。(引越し作業:1名, 障がい者の介護ヘルパー:2名)

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	人数	備考(活動内容)
<研修会の実施>				
情報交換&交流会①	12/1(日)	1回	15	“自分の思い”を言葉に乗せて伝えるワークショップ
情報交換&交流会②	3/16(日)	1回	16	「アイスブレイクとは？」ワークショップ

<センター・サポステ事業へ協力>

卓球フリータイム(北)	通年(月2回)	23回	33	卓球の相手
立ち直り支援(北)	通年(月1回)	11回	27	府青少年課と行う清掃活動
何でも質問・相談コーナー(北)	9月～	8件		質問へ回答
野菜づくりから仕事に近づく(北)	5/7～11/19	55回	89	農作業補助
ごぶSAT(北)	8/1	1回	7	ケーキの作り方を指導
何でも質問BOX(中京)	8月～	8回	8	質問へ回答
創造活動室の開放事業(東山)	通年(週1回)	40回	78	ものづくりのサポートなど
やませいまつり(山科)	11/4	1回	2	青少年ボランティアの補助
アジプロ実習Ⅰ～Ⅲ(南)	6/10～3/10	23回	23	参加者への指導, 助言
しゃべり場in伏見(伏見)	11/21	1回	1	人づくり21世紀委員会ネットワーク事業へ参加
学習支援(サポステ)	4月～9月	4回	4	マンツーマンでの学習支援。学び直し

<ブロックと協働の取組(居場所プログラム)>

アフタヌーン亭(北・左京・上京)	通年(月2回)	24回	47	しゃべり場, 料理づくり/北センター
赤レンガカフェ(中京・西京・右京)	7月～(月1回)	7回	50	コラージュ体験, しゃべり場/中京センター
ティーコーナー(東山・山科)	通年(月1回)	11回	44	しゃべり場/山科センター
はじまるサロン(伏見)	10月～2月	4回	22	保護者向けゲストトークと交流/伏見センター

<オープンセミナー> ※サポーター以外の参加者もあり(カッコ内はサポーターの人数)

伴走型の就労支援についての学習会	3/23(日)	1回	11 (7)	地域の資源を活かし, 若者を仕事の現場までつなげる伴走型の就労支援について学ぶ。
------------------	---------	----	-----------	--

IV. 北青少年活動センター

全体の動向

周辺大学のダンス系サークルや演劇などのグループ利用が伸びたものの、個人利用と事業参加者が減少し、総利用者数は対前年度比で1,614名(+3.6%)の増加にとどまった。

自然体験・環境学習事業は、次年度の内容充実・参加者増に向けて、下半期に北山三学区(小野郷・中川・雲ヶ畑)の調査や関係づくりを行った。地域交流・連携・参画に関わる事業では、青少年に多様な機会を提供し、地域参加を促進した。また、居場所づくり事業や職業ふれあい事業では、青少年の自立に向けた動きを支援し、成果が見られた。

(1) 自然体験・環境学習事業

① 自然に親しむ事業

○アウトドアを楽しんだり、自然と暮らし、文化を感じるプログラムを実施した。「水尾柚子絞り体験」では留学生の参加があり、集落内の散策、地域の風習(料理)も体感した。

② こども自然体験クラブ

○月に2回程度、青少年ボランティアが定期的にミーティングを行い、ネイチャーゲームやハイキング、ストーンアートなど、自然の中で遊び、学ぶ体験ができるプログラム(小学生対象)を企画運営した(計4回)。

(2) 居場所づくり支援事業

① みんなの居場所〜ごぶSAT(ごぶさた)

○毎月第2・第4土曜日に、コミュニケーションが苦手など、何らかの課題を感じている青少年を対象に、料理やレクリエーションなどのプログラムを実施した。6月から個人面談を実施したことで、それぞれの課題を把握し、その解決に有効な共同作業などをプログラムに組み込んだ。その結果、就労・進学への意欲や成長が見られた。また、ボランティアも対人支援の中で彼ら自身の強みに気づくことができた。

② アフタヌーン亭(地域若者サポーターと共催)

○北・上京・左京ブロックと共催し、毎月第2・4土曜日に「アフタヌーン亭」(しゃべり場)をロビーにおいて定例で実施した。青少年の異世代交流の場となっている。

(3) 地域交流・連携・参画に関わる事業

① 地域活性ボランティア

○地域の環境団体(日本環境保護国際交流会)と月1回、定期的に紫明通りの清掃活動を行った。

○北区役所のふれあい事業(区民春まつりや区民夏まつり)に参加協力するとともに、地域のイベントのブース出展(FUNAOKA STANDARD)や運営会議(新大宮夏祭り、紫野まつり)にも参加した。

② 伝記作成プロジェクト

○ボランティアが周辺地域や福祉施設の高齢者から人生のお話を聞き取り、手づくりの冊子(伝記)にまとめ、敬老の日に贈呈した。高齢者から戦争体験や戦後の復興時代、その後の人生のお話を聞くことで、教科書に載っていない学びの機会があり、青少年が今の時代との違いを考える機会となった。

③ サンタになろう！(サンタクロス・プロジェクト)

○ボランティアが、クリスマスイブにサンタやトナカイに扮して、保護者から事前に預かったプレゼントとパフォーマンスを届けた(訪問家庭14軒)。

○京都女子大学の社会教育実習生3名を受け入れた。また、中学生や視覚障がいのある大学生もボランティアとして受け入れ、多様なメンバーと一緒に活動をする中で、子どもの喜びや笑顔にふれて高い満足感と達成感を得た。

○児童館と老人福祉センターのクリスマス会にも参加協力し、青少年が地域の施設について知る機会にもなった。

④ 西陣ひと・まち・もの語り

○西陣地域を中心に、街並みや歴史、人々の生活や習慣などをインタビューし文章にして、HPに掲載した。(6件)また、「20選集」を増刷して、各青少年活動センターと北図書館に設置した。

○まちあるき企画として、「ぶらり歩き@西陣」を企画実施したことで、ボランティア自身も、より西陣地域の魅力について知る機会となった。

⑤北こみフェスタ(北区身体障害者団体連合会と共催)

○センター全館をつかって、青少年が活動を発表したり、障がいのある地域の人と交流をしたりするイベントを企画実施した。事前に、実行委員会(計8回)や出演者出店者に向けてのオリエンテーションを実施し、「障がい」について理解し、学ぶ機会をつくった。当日は、170名の来場者があった。

⑥HIV・性感染症予防啓発事業、若者しゃべり場(保健センターと連携)

○北保健センターと事前準備をしながら、事業「北こみフェスタ」内でロビーでのチャーム作りなどを行い、HIVとデートDVの予防と啓発を行った。また、即日検査(無料)も実施し、17件の受診があった。

⑦北区地域×学生応援団(社会福祉協議会、大学ボランティアセンターと連携)

○ネットワーク会議(全5回)を通じて、北区内の4大学(京都産業大学、立命館大学、佛教大学、大谷大学)のボランティアセンター担当者同士が顔の見える関係づくりから、一歩踏み込んで「学生と地域とを結びつける場」をつくるプラットフォームになることを確認した。

⑧非行少年等立ち直り支援事業(京都府青少年課と連携)

○京都府の「立ち直り支援チーム(ユース・アシスト)」に協力し、家庭裁判所に送致され係属中の少年を参加対象にして、地域若者サポーターとともに、月1回の地域清掃活動を行った。

(4)担い手育成に関わる事業

①自主活動支援事業

○青少年による自主的な企画を実施するために、必要な支援協力を行った。登録グループは、カフェスペース(居場所づくり)、BBS(中3学習支援)、KYODOキッチン(地域の伝統料理の継承)の計3件。

(5)利用促進・発信・広報に関わる事業

①eat☆moくらぶ(いいともくらぶ)

○「食」に関する事業を年5回実施した。料理室の利用促進に加えて、環境や異文化の理解、参加者の交流なども目的として実施した。知的障がいをもつ青少年の参加も多く、敷居の低い事業になっている。

②きたせいフリータイム

○多目的ホールに卓球台を設置して、月2回予約なしでも卓球が気軽にできる時間を設けた。日頃あまり運動する機会のない青少年たちが積極的に利用する様子が窺えた。

○青少年が、集中して勉強するために自習室を開放し、センター利用の入口機能を果たしている。

③広報充実事業

○北区内の大学ボランティアセンターが主催するボランティア説明会で、ブース出展を行い、新規ボランティアを獲得した(京都産業大学、立命館大学、佛教大学の3大学で4日間)。

○センター内でのボランティア説明会を開催。(秋に1回)

(6)相談・情報提供事業

①ロビーにおける情報提供事業

○何でも質問・何でも相談コーナーを設置し(9月以降通年)、合計で124件が寄せられた。

②相談事業

○件数は258件と前年度より大幅に増加(74件)した一方、回数は385回とほぼ前年並み(+14回)であり、継続相談よりも単発相談が増えた。困難な相談には、総合相談窓口とも連携して対応した。

(7)就労支援に関わる事業(職業ふれあい事業)

①「野菜づくりから仕事に近づく～働きながら、働く事を考える14週間～」

○中間的就労の場として、野菜づくりの一連の流れ(畑づくりから種まき、水やり、収穫、販売まで)を体験し、自分の強みを考える機会をつくった。参加者は4名で、全員が就労(アルバイト含む)に結びついた。

(8)学習支援事業

①BBS中3学習会

○生活保護世帯の中学生を対象に、高校受験に向けた学習会を立命館大学衣笠地区BBS会が主体的に運営できるように支援した。前年度に学習会に参加して高校へ入学した生徒も継続して参加し、中学生に対して、よいロールモデルを示すことができた。

<行事一覧>

事業名	実施時期	回	参加者(のべ)	備考(実施場所等)
自然に親しむ事業 ①「田植を体験」 ②「大文字山ナイトハイク」 ③④「ゆずの里で農業にふれよう！」	①6/23 ②7/6 ③11/30 ④12/8	4	①8 ②3 ③5 ④6	①左京区岩倉 ②大文字山 ③④右京区水尾
子ども自然体験クラブ(ミーティング)	通年	27	8(111)	
子ども自然体験クラブ(子どもとの事業) ①「植物で工作しよう！」 ②「小さい秋を見つけよう！」 ③「わくわく、双ヶ丘探検！」 ④「みんなでつくろう！ストーン☆アート」	①5/26 ②9/29 ③11/17 ④2/23	4	①子ども3・Vo3 ②子ども15・Vo4 ③子ども13・Vo6 ④子ども7・Vo3	①宝ヶ池 ②船岡山 ③双ヶ丘 ④鴨川
みんなの居場所 ごぶSAT(ごぶさた)	通年 (毎月第2・4土曜)	24	参加者(161) Vo(55)	
地域活性ボランティア(清掃活動)	通年 (毎月第1土曜)	12	Vo(69) 共催団体等(32)	紫明通り
地域活性ボランティア(ミーティング)	通年(毎月第1土曜、第3木曜)	23	(120)	
地域活性ボランティア(地域活動) 憲法月間街頭啓発/区民春まつり/新大宮夏祭り/区民夏まつり/FUNAOKAS TANDARD/紫野まつり/区民冬まつり		13	(612)	北大路タウン/船岡山/新大宮商店街/西加茂橋東岸/船岡山/紫野小学校/北文化会館
伝記作成プロジェクト ①研修会 ②交流会 ③贈呈式	①5/27, 6/3, 7/8, 8/26 ②6/3 ③9/16	6	①Vo(46) ②高齢者7・Vo9 ③高齢者10・Vo4	
伝記作成プロジェクト(聞き取り)	5/27~9/16	33	28(135)	
サンタになろう！(ミーティング, 準備など)	9月~12月 (毎週月曜)	25	10(153)	
サンタになろう！(施設訪問)	①12/14 ②12/21	2	①55 ②50	①紫竹児童館 ②北老人福祉センター
サンタクになろう！(家庭訪問)	12/24	1	153	
西陣ひと・まち・もの語り(ミーティング)	通年	21	10(94)	
西陣ひと・まち・もの語り(聞き取り)	通年	16	(41)	
北こみフェスタ(ミーティング等)	9/2~3/24	27	(235)	
北こみフェスタ	3/8	1	170	
自主活動支援事業 (カフェピース, KYODOキッチン)	通年	14	(109)	
自主活動支援事業(BBS) 中学3年生学習支援プログラム	通年 (毎週火曜)	47	学習者(161) Vo(212)	
eat☆moくらぶ(いいともくらぶ) ①「天然酵母のパンづくり」 ②「料理で異文化交流エジプト&ドイツ」 ③「野菜ソムリエの料理教室」 ④「はじめてのX'mas Cakeを焼こう！」 ⑤「バレンタインのチョコケーキを作ろう！」	①6/16 ②7/7 ③10/20 ④12/7 ⑤2/2	5	①15 ②8 ③9 ④12 ⑤12	
職業ふれあい事業	5/7~9/8	73	(438)	農作業:岩倉長谷町 研修:北センター

全体の動向、傾向

利用者数は、昨年度に比べ事業参加者数・施設利用者数が共に伸び、全体で3,567名の増加となった。事業面では、「演劇ビギナーズユニット」の20周年記念事業を実施するとともに、「東山アートスペース」の10周年の記念して記念報告書の発行を行った。また、「学校との連携プログラム」だけでなく、「東山フェスタ」や「ココロからだンス」、「アトリエC」など個別の事業においても、地域団体や関係機関との新たな連携を進め、「表現活動へのお誘い」、「アトリエC」の継続(31歳以上の継続した活動)した団体が保護者から立ち上がった。

(1)センター独自のテーマに即した事業

—創造体験事業—

①演劇ビギナーズユニット(京都舞台芸術協会との共催)

初心者対象の演劇プログラムで、初めて出会う仲間と集団創作し、最後に修了公演を実施。様々な困難を乗り越えて得られる達成感や充実感、様々な価値観にふれること、他者との共同作業を行う中でのコミュニケーションスキル向上、課題へのチャレンジなど、自分づくりに欠かせない体験の機会を提供した。また、20周年記念事業として、シンポジウムやワークショップ、パネル展示、過去の作品集の上映を行い、活動報告冊子を発行した。

②ココロからだンスW.S

初心者対象の創作ダンスプログラムで、初めて出会う仲間と集団創作し、最後に修了公演を実施。公演終了後の最終ミーティングでは、参加者それぞれに、考え方や感じ方の変化、又は自己認識の変化や、人との関わり方に関する変化が生まれたことが確認できた。

—若者文化発信事業—

①ステージサポートプラン(14グループをサポート/YU'Z利用は、のべ43グループ)

- 日々の活動成果を発表する場の提供として実施。グループの経験や公演目標などに合わせて、幅広くサポートした。KYOTO EXPERIMENT事務局(芸術センター内)と協力し、大規模な広報を行うことができた。
- 「YU'Z」(発表・公演前のグループへの練習場所提供)について、25団体(利用申請数43件)が利用した。
- 創活番(創造活動室での活動支援ボランティア)の養成講座研修と、現場体験プログラムを実施した。

—余暇活動支援事業—

①東山アートスペース(A・Bコース)

- 知的障がいのある青少年の余暇活動(アトリエ活動)を実施した。今年新たに若手アーティストにアシスタントとして協力を得て実施した。
- 8月と3月に市民が参加できるイベントを実施した他、天才アートミュージアム展2013での作品の協力し、動の周知と知的障がい者との交流を図った。

②表現活動へのお誘い〜からだではなそう〜(A・Bグループ)

- 知的障がいのある青少年の余暇活動の充実を目的とした体を動かすプログラムとしてダンサーやボランティアの協力を得て実施した。新規の参加者が4名、ボランティア、大学からの実習生の受入れが加わったこともあり、ナビゲーター、アシスタントのサポートのもと、雰囲気慣れるとともに参加者、ボランティアの関係性をより良く築けるような体制で行った。
- 5月から6月にかけて昨年度の活動の写真を展示した記録展をロビーにて1か月間行うことで、活動の周知を図った。

(2)居場所づくり事業

①東山コトハジメ

- 青少年ボランティアが関わることで中高生にとって安心して参加できる居場所づくりを定期的実施した。クリエイティブアニメの動画作品はホームページや動画配信サイトへ投稿した。
- 「東山区民ふれあいひろば」(5月)で、東山青少年活動センターの広報を兼ねてブースを設置し、小学生を中心に幅広い世代にクリエイティブアニメを体験してもらう機会とした。

②ものづくりワークショップ(自主事業)

陶芸や木工などが体験できるワークショップを実施した(計5回)。ものづくりの楽しさを感じてもらい機会になり、他事業や施設利用にもつながった。

③アトリエC(自主事業)

知的な障がいのある青少年の余暇活動を支援し、作品展示などで積極的に外部発信を行う活動として実施。近隣のカフェでの常設展示を行った。ナビゲーターと保護者の方が中心となり、継続して余暇活動ができる場づくりを立ち上げるようになった。

④ヒガシヤマDEものづくり(自主事業)

創造工作室の利用促進と利用者相互の交流をねらいとして実施した。陶工技術専門校の学生の陶芸利用やサンドブラスト利用が多い。今年度は地域若者サポーターが陶芸の事業に参加したことで陶芸への理解が進み、青少年にとって敷居の低い場となり、居場所機能の向上に繋がった。

(3)地域交流・連携・参画に関わる事業

①地域(団体)・NPOなどとの連携プログラム(共催事業)

地域力推進室や社協、福祉機関、NPO(音楽関係)と協働し、障がいのある方の音楽イベント「スマイルミュージックフェスティバル」を実施した。また、個別の事業において、京都女子大学、東山区保健センターや東山区社会福祉協議会、清水児童館などの団体と連携・協力を得ることができた？

②学校との連携プログラム

高劇連(京都府高等学校演劇連盟)演劇基礎講習会と交流会や、11校による合同公演、中学校教育研究会演劇部会(中劇研)9校の合同公演を実施した。その他、教育関係者とともに考える創作ダンスワークには、小学校教諭や児童館職員など5名が参加。現場での実践的な取り組みの研究の場となった。

(4)担い手育成に関わる事業

- 京都橘大学(文化プロデュースコース)のスタッフワーク研修の開催。
- 「東山コトハジメ」の担い手、「ヒガシガシ」編集スタッフ、創造活動支援のスタッフ、「東山アートスペース」などのボランティアスタッフを育成した。
- 創造表現をサポートする人材の育成を行った。

(5)利用促進・発信・広報に関わる事業

①ロビープログラム

青少年が立ち寄りやすい雰囲気づくり、ロビー空間を使ってできる利用者とのコミュニケーションを工夫した。また、ロビーギャラリーとして「東山アートスペース」や「表現活動へのお誘い」、「東山フェスタ」などの作品や活動記録の展示を行った。

②東山フェスタ

東山センターの周知を目的として夏休み期間に広く市民の方々が参加できる、ものづくりや表現活動を中心とした、16のプログラム(共催プログラム11を含む)を実施した。企画については、新たに、地域や地域課題に目をむける企画を実施し好評を得た。

③ホームページの管理運営・情報発信

ホームページのコンテンツの充実を図るとともに、情報誌「ヒガシガシ」による、定期的な情報発信を青少年ボランティアの参画により行った。また、ブログを使った日々の活動報告、ロビー空間を有効に使った情報発信などを行った。Facebookページの運用を始め、ホームページやブログへの誘導を行った。ブログのアクセス数は大幅に伸び、訪問者数28,455人。昨年度より37.87%増加となった。

(6)相談・情報提供事業

グループ内での課題達成や人間関係について、職業選択や将来についてなど青少年の多様な相談に応じた。相談件数は、361件と昨年度とから69件の増加だった。

(7)就労支援に関わる事業

①働く気持ち応援ワークショップ(演劇から学ぶ、働くためのコミュニケーションワーク)

無業の状態の続く青少年や就職活動に不安のある学生を対象とし、演劇的手法を用いて自己表現能力やコミュニケーション能力を高める体験を提供した。今年度から振り返りの回を設け、より気づきや自分自身の変化について知る機会となった。

<行事一覧>

行事名	実施期間	回数	参加数(のべ)	備考(実施場所等)
演劇ビギナーズユニット2013	5/24～9/6	38	17(1,853)	ボランティア含
修了公演	9/1・2	3	267	
20周年記念事業(BU20 years)	①7/6	2	①(60)	
①シンポジウム(1部・2部)	②7/7	4	②32	
②ワークショップ	③7/1～9/1		③201	
③パネル展示	④7/5.6 8/3		④37	
④ラスト3分集の作成・上映	1.9/1	4		
ココロからだダンスW.S 2013	12/2～3/27	31	7(729)	自主練習, ボランティア含
修了公演	3/21～23	3	(102)	
ステージサポートプラン	4/1～3/31	84	(4,927)	ボランティア含
「YU'Z」	4/1～3/31	243	(1812)	延べ45グループ
創活番	5/18～1/19		15	
ボランティア研修	4/22	1	10	
東山アートスペース(A・Bコース)	6/16～3/2	18	36(510)	ボランティア含
お試しプログラム	5/19	1	16(16)	ボランティア含
夏イベント	8/25	1	40(40)	ボランティア・保護者含
春イベント	3/9	1	64(64)	ボランティア・保護者含
作品展展示	4/8～21	12	(948)	東山区総合庁舎1階展示ホール
天才アートミュージアム展・展示	11/2～17	15	(1380)	
表現活動へのお誘い ～からだではなそう～(A・Bグループ)	5/18～3/15	20	36(560)	ボランティア含
写真展(昨年度後期)	5/6～6/2	53	(1219)	
写真展(前期分)	10/28～12/1			
東山コトハジメ (1～3クール)	5/26 7/26～3/15	1 13	 7(178)	区民ふれあいひろば出展(開晴館)
学校との連携プログラム				
①高劇連演劇基礎講習会と交流会	5/12	1	109	
②京都橘大学スタッフワーク研修	5/18.19	2	20	ボランティア含
③照明・音響講座(中劇研・高劇研)	5/18・1/12	2	中劇研48 高劇研75	ボランティア含
④中劇研春の合同公演	6/8～9	9	127(公演入場 者のべ294)	リハーサル・本番含 市内の私立・公立中学校9校
⑤ドラマスクール	7/23・24	2	43(188)	
⑥高劇連中部支部冬の合同公演「冬 劇祭」	1/12～18 1/18.19	11	132(公演入場 延べ253)	仕込み・リハーサル・本番含 京都府立・私立高校11校
⑦教育関係者とともに考える創作ダン スワーク	11/25.12/15. 1/25.2/8.3/8	5	6(20)	
東山フェスタ2013	7/15～9/1	21	(1, 052)	16プログラム実施(共催は11つ)
自主事業				
ものづくりワークショップ「アトリエC」 常設展	6/23～2/9 10/25～2/13	8 ?	17(192) (2,530)	創造活動室 お茶の間ハウス(五条京阪近辺)
平成25年度作品展「VIVID」	2/27～3/4	?	(302)	ANTIQUe belle Gallery
前期ものづくりワークショップ①②③④ ロビー展示	5/21～8/20 6/10～9/20	17	45(71)	
陶芸ワークショップ 「春まちセットをつくろう」	2/21.28 3/7.14	2 2	10(37)	創造工作室
ヒガシヤマDEものづくり	4/4～3/29	102	59(509)	地域若者サポーター含
「働く気持ち応援ワークショップ」	11/7～12/17	7	8(32)	

全体の動向

前年度まで利用していた非行傾向のある青少年が来館しなくなり、ロビーでの個別支援活動を中心としていたセンターの役割も変化が求められている。勸修中学校区における“地域福祉型の学習支援活動”の立ち上げや、セクシャルヘルス事業のアウトリーチ、非行問題への新たな取り組みなど、市民参画の時代にふさわしい地域連携事業に挑戦した1年であった。

(1) 課題別事業(青少年の課題や困難にアプローチする仕組みづくり)

① セクシャルヘルス事業

エイズ予防財団の助成金を受け、他センターと共同してボランティア研修、職員研修等を行った。また、山科区では、教育、福祉、保健などの関係機関と連携し、障がいのある若者を対象にしたセクシュアルヘルスプログラムを実施した。

② 少年非行と地域サポート研究会

少年非行の問題を市民とともに考えるための契機として、「少年たちの“いま”と“未来”を考えるサロン」を実施した。

(2) 居場所づくり支援事業(ロビーワーク「余暇活動支援」事業)

① ロビー居場所

近隣の中学校だけでなく、山科全域の学校から中学生の利用があった。特に土日、学休期間中は大賑わいで、それぞれ小グループで話しあったり、スポーツに汗を流したりしていた。

② やませいへico

季節に応じた1日完結型の企画を1ヶ月に1～2回のペースで実施した。継続的に参加する中学生が多く、新たな参加者の獲得にはつながらなかった。

③ サポーターカフェ(地域若者サポーター活用事業)

毎月第3土曜、ロビーに喫茶コーナーを設置。絵手紙や漢字クイズを媒体に青少年と交流を図った。また関わりの質の向上のために対人援助者のためのサロンを2回開催した。

④ 10代「勉強・あそび」応援プロジェクト

学休期間中、10代の若者たちが安心して過ごせるよう、「中高生スポーツタイム」を設定したほか、中3勉強会の卒業生を対象にしたレクリエーションタイムを実施した。

⑤ 一人で使える自習室

センター利用のきっかけとして自習室を運営。他事業への参加やユースワーカーへの進路相談などにつながっている。

(3) 地域参加促進事業

① 中高生の地域参画連続事業

社会福祉協議会との共催事業である「やましなユースアクション」を発展させ、中高生が「やませいまつり」「ふれあい区民まつり」「サンタ大行列」などの地域事業へと継続的に関わる仕組みを試行した。

② やませいまつり／ぐるっとふれ愛まちフェスタin山科

商店会、近隣の公共施設と共に取り組む「ぐるっとふれ愛まちフェスタ」の一環でやませいまつりを実施した。天候に恵まれたこともあり、フェスタには多くの来場者があった。また、やませいまつりでは、新しくできた近隣の介護施設の協力があり、新しいつながりが生まれた。

③ 若者が発信する21世紀山科まちづくり

青少年が取り組む地域貢献事業の発表会で、10回目の本年は、中学生から社会人まで7グループが参加した。

発表後に行った多世代混合のワークショップは参加者同士をつなげると機会となり好評であった。

④ざっくばらんサロン「しっとこ10代しゃべっとこ山科」

龍谷大学地域公共人材・政策開発リサーチセンター(LORC)や山科醍醐こどものひろばと連携し、9月28日にワークショップを実施。地域課題を可視化したことにより、新しいアウトリーチ事業である勤修中学校区の地域福祉型学習支援事業につながった。

(4)地域連携・協働事業

①共催事業

- 薬物依存経験者の自助グループ「NA響グループ」
- にほんご教室「たちばな倶楽部」
- 京都中央地区BBS会による非行少年等の立ち直り支援活動「アフタースクール洛東」
- 京炎そでふれ！京躍華「そでふれ教室」
- 地域活動ボランティア「あそび隊」
- めくるめく紙芝居実行委員会「めくるめく紙芝居2013」
- 山科区社会福祉協議会「やましなふれあい手話初心者講座」
- 山科区社会福祉協議会 中高生の夏休み福祉体験事業「やましなユースアクション2013」

上記8つの共催依頼を受けて実施した。それぞれは意義ある活動だが、センターにとっては施設提供の域を出ず、実体のある協力関係の再構築が急務であると認識された。

②地域連携事業

地域協働を目的として、一斉清掃や夜間パトロールへの参加、要保護児童対策地域協議会等の各種会合への出席を積極的に行った。

③運営協力会との連携

「少年野球教室の開催」など運営協力会主催事業の事務局を務めるだけにとどまらず、子どもの貧困問題などの周知を図り、運営協力会の新たな在り方の模索を一緒につけた。

(5)担い手養成事業

①ボランティアスタッフ育成事業

年間を通してコンスタントに受入れを行ったが、体制が整わず、十分な学びの機会を提供できないこともあった。また、学業、アルバイトなど、学生が常に忙しく、継続参加にむすびつけるための動機づけをどのように行っていくかが問われている。

②実習生・インターン生受入れ

立命館大学、同大学院、京都女子大学からの実習生に加え、京都橘大学、びわこ成蹊スポーツ大学の学生をインターン生として受け入れた。

③ロビーワーカー養成

京都中央地区BBS会の協力を得て、ロビーボランティアの活動を行った。今年度は、BBSのメンバー以外にも2名の学生をボランティアとして受け入れることができた。

④学習サポーター養成

中3勉強会を安定して運営できるだけのボランティアの参加があった。また、日々の活動のふり返りに時間をかけ支援の質の向上を目指したほか、外部研修への参加補助などを行った。

(6)利用促進・発信・広報に関わる事業

①やませい広報プロジェクト

計画に掲げた新たな取り組みはできなかったが、「子どもの貧困と学習支援フォーラム」と「若者が発信する21世紀の山科まちづくり」では、詳細な報告書を発行したことで、その公益性をアピールできた。

②やまスタ配布

区内中学校の新1年生全員にパンフレットを配布することで、センターの利用促進を目指した。

(7)相談・情報提供事業

①日常的な相談・情報提供

ロビー、自習室の利用者を中心に相談活動を行った。

②レニアイリョク向上プログラム

バレンタイン期間を利用して、デートDV(恋人間の暴力)予防啓発のための展示を行った。展示を通してロビーで過ごす中高生はもちろん、テニスコートを利用する大学生たちと恋愛について話し合うことができた。

(8)学習支援事業

①やましな中3勉強会

学習者全員の進学が決定した。運営面では、勉強会以外でもセンターを利用できるように工夫し、卒業後に、いつでも訪ねてこられる関係づくりを目指した。

②「子どもの貧困」と学習支援フォーラムin山科

「子どもの貧困」問題の周知及び学習支援事業関係者のネットワーク形成を目指してフォーラムを実施。定員を大きく上回る参加者を獲得でき、全国の実践者との交流の機会や、市民の方に子どもの貧困を知ってもらう機会となった。

<行事一覧>

行事名	実施時期	回数	参加者／のべ数	備考(実施場所等)
少年非行と地域サポート研究会	2/15	1	31名	
「子どもの貧困」と学習支援フォーラム	6/30	1	322名	
担い手養成(ロビーワーカー・実習生等)	通年	127	350名	
共催8事業	通年	170	2,644名	
やませいまつり(ぐるっとふれ愛まちフェスタ)	11/4	1	1,700名	
地域若者サポーター活用事業	通年	12	444名	
若者が発信する21世紀の山科まちづくり	3/1	1	82名	
龍谷大学LORCとの連携事業	通年	8	116名	9/28ワークショップ
サンタ大行列	12/23	1	167名	山科駅～西友
やませいへico	通年	29	446名	
中学生のスポーツタイム	4月～6月	11	159名	
中3勉強会同窓会	8/24, 2/1	2	27名	
自習室	通年	340	3,137名	
障がいのある若者の性教育講座	11/24	1	38名	山科アスニー
支援者のための性教育講座	2/24, 3/11	2	70名	山科 中京

全体の動向

利用者数は前年度に比べ増加。施設利用・事業参加ともに増加した。ロビーや施設利用に関して、前年度より非行や規範意識の薄い中高生の利用があり、それらを含むグループの利用が続いた。反社会的な行為には対応しつつ、その背後にある理由に焦点を当て寄り添い、話を聴きながら関係をもつことで、徐々に信頼関係を構築できるようになってきた。地域住民との関係も大切にしつつ、周囲の清掃や地域との協働のイベントを持つなど関係構築に努め、理解が深まってきた。近隣中学校の補導主任と生徒指導の担当者と定期的な意見交換の場を持ち、どのように成長を促していけるか話し合った。一方、広報面では、地元との関係強化を図るため、各商店街や企業、学校関係などを回り機関誌の配布など広報を行った。

(1) スポーツレクリエーション事業

① スポーツルーム・フリータイム

人気のスポーツルームにおいて、中高生年代を対象に予約無しで使える時間帯を設定し、余暇充実の場となった。フリータイムの参加を足掛かりに、部屋を予約して利用する流れが生まれ始めている。また、継続的に利用しているグループがセンターの他の事業へ参加するなど、新しいつながりが生まれている。また、利用の前後で日常的な話題から相談への繋がりが見られ、継続的な関係が構築することができた。

② トレーニングルーム・ガイダンス

トレーニングルームを初めて利用する人を対象にトレーニングルームアドバイザーが中心となりガイダンスを実施。利用者層と年齢に近いアドバイザーがいることで利用が増えている。

③ トレーニングルーム利用活性化事業

今年度は登録者数が減少したこともあり、利用者数は大幅に減少している。

④ ストリートダンス教室

年4回イベントに出演し、ダンス以外にも交流会を開催するなどして参加者同士の交流を図った。また、中級クラスはLIVE KIDS in新風館にエントリーし出場した。結果的には落選したが、ダンス技術の向上とチームワークを高めることに成功したと感じている。

(2) 居場所づくり支援事業

① ロビーワーク

青少年ボランティアが日常的にロビーを利用する中高生に対して関わる事業。登録者数が少ないものの参加者と一緒に体を動かすなど関係性を築くことができた。

(3) 地域交流・連携・参画に関わる事業

① スタッフ派遣事業【スクランブル】

「小学校対抗ドッチボール大会」(下京区少年補導委員会)、「下京区ふれ愛まつり」(下京区役所)にスタッフを派遣した。また、光徳学区少年補導委員会から「光徳学区町内対抗ドッチボール大会」の依頼を受けスタッフを派遣。センター近隣における活動の幅が広がった。

② プラン・ドゥ

MIHOダンスファクトリーからの申請による「KID'S HIPHOP」を4月から3月まで実施。また、KOBATY.F.Cからの「KOBATY CUP」の開催依頼を受け、5月、9月、11月、3月に実施。

③ しもせいフェスタ(ラウンドアイズ)

3階で青少年グループの舞台発表と模擬店ブース、2階では青少年ブース、1階駐車場ではフリーマーケットを設置し全館を使ったお祭りを実施した。また、商店街に協力をしていただき、商店街をまわる謎解きゲームを実施した。その他にも、同日開催の「梅小路いきいきフェスタ」や、七条中央サービス会「サマーナイトフェスティバル」への参加、七条中央サービス会を会場とした「餅つき大会」の実施など協働の機会が増加し、地域のセンターへの理解を得るきっかけとなった。

④地域共催事業

- 下京区「人づくり」ネットワーク実行委員会への協力、地域に根ざしたバレーボールリーグ「Sリーグ」の実施、その他「レクリエーションインストラクター養成講習会」、「下京歩歩塾(しもぎょうぽっぼじゅく)」、「わんわんキッズ」などの地域事業に共催した。
- 京都市中央卸売市場協会主催「夏まつり」実行委員会からの協力要請により、センター利用者に呼びかけて「k-two-max(バトントワリング)」「Swish☆Junkie(ストリートダンス)」「ゆにっこ・ユニコト(一輪車)」の3チームがステージで演技を披露し、地域のみなさんに喜ばれた。地域との関係の広がりが見えた。

(4)担い手育成に関わる事業

①しもせいチャレンジ☆キッズ

- 青少年ボランティアが企画・運営を行う野外活動・スポーツプログラムを通して小学生と継続的に関わることで、共に成長することを目的とした活動を年8回実施した。両者ともに継続的な参加が増加し、より深い学びを得ることができた。

(5)利用促進・発信・広報に関わる事業

①しもせい通信

- 中高生向けの下京青少年活動センターパンフレットを作成し、センターオリジナルファイルとともに下京区内の近隣中学校新生に配布した。その結果、センターへ来館する新生が増加した。

(6)相談・情報提供事業

①ロビーにおける情報提供事業

- 「超なんでも箱(なんでも質問BOX)」「みんなのオススメ本」「しもせいに来たキッカ系」「今年の抱負」「しもせいの事業紹介」など掲示板にコーナーを設けて書き込みができるようにすることで、若者特有の意見や想い・悩みが書き込まれていて、これらをきっかけに様々な話ができるようになった。

②相談事業

- 「超なんでも箱(なんでも質問BOX(再掲))」をきっかけに悩みの相談に発展していた。また、事業(アジプロⅡ・担い手養成事業等)を通して社会と関わる機会が増えることで相談が増えていた。

(7)就労支援に関わる事業

①アジプロⅡ ～あたまとからだを使ってじっかんするプログラム～

- 事務所内において電話受付や窓口対応の就労体験を実施した。各回の終了後には一日をふりかえり、他者からフィードバックを受ける時間を設けることで自分を見つめ直し、就労に向けて次のステップを具体的に考える機会となった。

(8)学習支援事業

①高校進学プロジェクト「らくさいスコーレ」

- 洛西地区の中3学習支援を中心に活動した。学習支援では、参加者もボランティアもモチベーション高く取り組んだ。3月の高校受験では参加者全員が希望する高校に進学した。

<行事一覧>

行事名	実施時期	回数	参加者数 (のべ)	備考(実施場所等)
スポーツ・レクリエーション事業				
スポーツルーム・フリータイム	4月～3月	145	1,560	
トレーニングガイダンス	4月～3月	65	158	毎週木曜日開催
トレーニングジム開放事業	4月～3月	142	591	毎月・木:体力増強コース, 火・金:筋力中心コース
ストリートダンス	4月～3月	58	551	毎週土曜日開催
居場所づくり事業				
ロビーワーク	4月～3月	81	591	
地域交流・連携・参画に関わる事業				
しもせいスタッフ派遣事業 「スクランブル」	4月～11月	5	724	梅小路小学校, 下京区民祭り, 下京区少年補導ドッジボール大会など
プラン・ドゥ				
Kid's HIP-HOP	4月～3月	47	361	MIHOダンスファクトリー主催
KOBATY CUP	5月～3月	5	98	KOBATY主催
しもせいフェスタ(当日)	10/5	1	1,013	下京青少年活動センター全館
しもせいフェスタ(ラウンドアイズ)	5月～3月	107	1,134	七条中央サービス会「サマーナイトフェスティバル」, 「梅小路いきいきフェスタ」等の協力含む
地域共催事業				
Sリーグ	4月～3月	114	3,668	Sリーグ運営委員会主催
レクリエーションインストラクター 養成講習会	6月～11月	7	120	京都府レクリエーション協会主催
下京歩歩塾(ぼっぼじゅく)	4月～3月	11	228	下京歩歩(ぼっぼ)塾運営委員会主催
わんわんキッズ	4月～3月	11	639	子育てサロン「わんわんキッズ」運営委員会主催
担い手育成に関わる事業				
しもせいチャレンジキッズ	5月～8月 10月～2月	7	85	花脊山の家, 百井青少年村等
しもせいチャレンジキッズ (ボランティア)		72	530	
就労支援に関わる事業				
アジプロⅡ	7月～3月	15	74	サポートステーション協力事業 2期開催
学習支援に関わる事業				
らくさいスコーレ	4月～3月	47	631	洛西境谷会館

全体の動向

新中学生や大学生年代などの利用が増えたが、高校生年代の利用が減少し各事業の参加状況にも影響した。青少年団体による共催事業を新たに実施した他、周辺地域との結びつきを強め地域活性化につなげていくための取り組みを継続的に実施し、従来の居場所事業だけにとどまらない展開を模索した。

(1) 課題別支援事業

① ステップアップ事業

- 青少年の状況に応じた個別／グループ活動を設定し、事業対象となりうる青少年との接点は複数あったが、個々人の状況もあり実登録に至らず。前年度から継続して参加した青少年は、新たなプログラムへの参加や複数の他者との交流など、本人のステップを踏まえた経験が持たれた。

② レンアイリョク向上委員会

- コーディネーターの配置をなくし、単独での実施。エイズデーに関連した啓発プログラムでは、学生団体や市立高校保健部の協力などを得ながら実施した。
- 外部での啓発機会として、「AIDS文化フォーラムin京都」や「LIVE KIDS」などで行政機関などと連携した啓発機会を複数もった。

(2) 居場所づくり支援事業(青少年の余暇活動支援)

青少年がセンターに気軽に訪れることのできる機会を設ける

① ロビー喫茶

- 特に中高生年代が気軽に立ち寄れるための場としての軽易な喫茶を通じ、青少年とボランティアスタッフとが交流し、日常生活での出来事を語り息抜きのできる場となった。
- 中高生利用に波があり定着とは至らず、ツールとしての活用の仕方を検討するに至った。

② ロビーワーク

- ロビーなどでの青少年との直接的・間接的な関わりにより居場所的空間づくりを行い、青少年との日常的な交流から相談まで幅広い接点を持たれた。
- 「何でも質問BOX」により、軽易な質問から、家族、友人、恋愛、身体や性に関することなど幅広い相談も寄せられた。
- 青少年が中心となって活動する「グチコレ」に活動の機会を提供し、ロビーを利用する青少年が日常生活の愚痴を吐き出す機会作りを行った。

③ 自習室フリータイム

- 自習／フリータイムを通じ、幅広い青少年がセンターを訪れるきっかけになった。また、そこでの関わりを通じ相談や他事業の参加へと結びつく機会が複数あった。
- 自習室においては中学生の利用は増えたが、高校生年代の利用が大幅に減少した。

(3) 青少年が余暇を楽しむ機会や活動をする機会、他者との交流ができる機会を提供する

① みなみわくわくプログラム

- 定期的実施する卓球プログラムの他、季節に応じた夏休みプログラム、夏祭り、クリスマスサロン、もちつきなど幅広いプログラムを実施した。
- 青少年の表現活動発表の機会として「Minami SONIC」を実施。例年3月のみに実施していたものを、夏祭りと合わせる形で8月にも実施した。発表のみならず、青少年同士の交流の機会となった。

② ボランティア体験「VoM's(ボムズ)」

- 気軽にできる活動の機会として、青少年が月1回の清掃活動に参加した他、センターや近隣で行われる様々な行事(フリーマーケット、区民祭り他)にコーナー運営などで参加した。
- 体験としての場を得たい青少年、継続的に緩やかな参加を行いたい居場所よりの青少年、積極的に活動を行いたい青少年など幅広いニーズが見られ、それぞれに応じた活動の在り方を検討した。

③ 20代話せるプログラム

- 20代青少年が飲食を通じ他者との交流を持つとして実施。他者との関わりに不慣れな青少年も多く参加し、プログラムを通じて参加者同士で刺激を受けあう姿が多く見られた。

④交流サロンhana cafe

- 調理・接客やカフェ運営そのものに携わりたい青少年がスタッフとなり、月2回喫茶を運営した。アジプロ事業参加者がその終了後に延長的な体験の場として参加する様子も見られた。
- 他事業、他団体とともに運営する機会を設定し、幅広い人が集まって交流する機会作りを目指した(もののけカフェ、グチコレ喫茶、他)。

⑤ロビーギャラリー

- 青少年の創作活動や社会活動の発信の機会として提供。大学生による絵画の展示、途上国支援を行う青少年団体による文化展、青少年育成団体による小中学生の作品展などを実施した。
- 個展に限らない企画展として「ありがとうの手紙」を実施。寄せられた手紙を中学校に展示し、学校関係者や保護者など幅広い人に見てもらえる機会となった。

(4)地域交流・連携・参画に関わる事業

①地域・関係団体・関係機関連携

- 地域及び行政関係への各種会合に出席し、地域力の向上に向けた取り組みに協力した。
- 近隣児童館・小学校など他機関と具体的なケースについての情報共有・検討の場を持った。

②共催・協力事業

- 「ほっとハウス」「京都ARU」など南区内育成団体の活動機会として、共催喫茶を実施。
- 「みかんマルシェ」による地域活性化事業、「おしのびバトル」による青少年ダンスイベントなど、センターを活用した新たな青少年共催事業が実施された。

③フリーマーケット(自主事業)

- 広く市民が来館する機会づくりとして、青少年パフォーマーの発表機会として年4回実施した。
- 地域の活性化や地域連携を高めるための取り組みとして、周辺店舗協力による協賛セールやマップ配布など行った。

④地域交流まつり事業

- 青少年だけでなく、地域住民などが幅広く参加できる機会として、夏祭り、クリスマスサロン、新年もちつきなどを実施した(わくわくプログラム参照)。

(5)担い手育成に関わる事業

①ボランティア体験・育成事業

- 年間を通じ説明会を設定し、各種事業の登録を募った。
- 活動終了に個別に振り返りを行い、活動経験のスタッフへの定着を図った。

②インターンシップ・実習生受入れ事業

- 立命館大学のインターン生がフリーマーケット事業において地域協賛企画の立案・運営に携わった他、京都女子大学の社会教育実習生2名がロビーワーク他各種事業において業務に携わった。

③地域若者サポーター活用

- 就労支援事業「アジプロ」の運営に、継続的に地域若者サポーターが携わった。

④支援者勉強会

- エイズ予防財団助成金事業(自主事業)の一環として、京都市内でヘルパー業務に携わる人を主対象に「障がいのある青少年の“性”の理解と支援」研修会を京都市居宅介護事業連絡協議会と実施した。
- 京都市教育委員会生涯学主部との連携により、PTAや学校関係者を主対象に「インターネット・ソーシャルメディア研修会」を共催実施した。

(6)利用促進・発信・広報に関わる事業

- 「みなみだより」を作成配布し近隣の中学高校に配布した他、地域回覧板の活用や企業協力による折り込みチラシ配布などで周辺住民への広報を行った。
- ホームページの他に各種SNSツールを活用し、ウェブを通じた広報展開を実施した。

(7)相談・情報提供事業

- ロビーワークなどを通じた日常的な対話からの相談の他、継続的な相談を必要とするケース、保健センターと検討を行うケース、子ども若者支援室へと紹介するケースなどがあつた。

7. 就労支援に関わる事業(あたまと身体を使って実感するプログラム「アジプロ」)

- 喫茶運営を通じた就労体験事業を年間3クール実施し、サポートステーション登録者、定時制高校生などが参加した。
- 期間中に丁寧な研修や振り返りを行うことにより、事業終了後の成長や就労に結びついたとの一定の評価を得た。

(8)学習支援事業

- 中学3年生2名、2年生2名の登録があったが、登録件数は他行政区に比べ著しく少なく、福祉事務所との連携による対象生徒の抽出に課題が残った。
- それぞれの日常生活の様子をうかがいながら個々に応じた学習補助を行い、3年生は希望校への進学を果たした。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加数／のべ数	備考
ステップアップ事業	通年, 基本第1・第3土曜	20	1(40)	ボランティア含む
レンアイリョク向上委員会	エイズデー12/3~15, LIVEKIDS啓発1/19, 3/18		233	
ロビー喫茶	毎週月・木		1190	ボランティア含む
ロビーワーク	通年, 随時		1499	ボランティア含む
自習室	通年, ほぼ毎日		1367	
フリータイム	通年, ほぼ毎日		3008	
みなみわくわくプログラム	通年, 時期に応じて		687	ボランティア含む
ボランティア体験「V o M's」	基本第4土曜日, その他	20	20(147)	
20代話せるプログラム	6/21, 7/19, 8/30, 10/ 18, 11/15, 12/20, 1/3 1, 2/21, 3/3, 3/14	10	67(136)	ボランティア含む
hana cafe	7月以降, 基本月2回土曜日	14	218	ボランティア含む
ロビーギャラリー	6/17~6/30, 7/1~7/1 4, 3/1~3/14, 3/16~3 /29	4	605	搬入・搬出含む
共催・協力事業	(内容による)		1740	
共催事業 (ARU)	基本月2回火曜日		447	ボランティア含む
共催事業 (ほっとハウス)	4/12, 5/10, 6/14, 8/2	4		
フリーマーケット	6/23, 9/8, 12/1, 3/9	4	2121	ボランティア含む
ボランティア体験・育成事業	説明会月2回の他, 随時		66	
エイズ予防財団助成金事業	2/11	1	67	
インターネット・ソーシャルメディア研修会	1/14	1	36	
アジプロ	6/10~7/29, 9/24~11 /11, 1/20~3/10	3クール 21	9(484)	カフェのお客含む
学習支援プログラム	毎週木曜日		4(273)	ボランティア含む

伏見青少年活動センター

全体の動向

前年度で6,207名増加した。平成24年度と合わせると2年間で10,000人以上の増で、地域連携事業やロビー空間を使った他団体との共催イベントなど市民への認知も広がっている。また、中高生による定期試験や入試のための日常的なロビー利用も大きく反映している。しかしこうした急激な増加による利用者数も頂点を迎えたと思われる。

(1) センター独自のテーマに即した事業

多文化共生社会を目指した事業＝地域課題の解決と、その人材育成

① 異文化交流サラダボウル・Project (若者による異文化理解を深めるための事業の企画、運営)

- 異文化交流・多文化共生を目指す青少年グループとして、主催プログラム実施や他団体に協力し、企画を実施したことで、これまでよりも地域にアピールできた。反面、定期的なミーティングへの参加数が低く、グループ運営の面での課題から、企画の遅れや実施数は前年度よりも少なかった。

② にほんご教室の開催

- 日本語を母国語としない人たちへの学習支援活動を行った。今年度は学習者・ボランティアともに前年度より増え、毎回10名～15名の学習者が参加し、青少年ボランティアが主体となって交流会も行うなど、昨年度課題であった運営面での改善が見られた。

(2) 居場所づくり支援事業

社会適応に困難を感じている若者に安心できる場やプログラムを提供

① ちょこっとプログラム

- 対人関係や社会適応に苦手意識をもっている青少年に、毎月2回、料理や軽スポーツなどの手軽なプログラムを提供し、交流する機会を創出した。就職が決まる、サークル活動を始める等新しいことに挑戦する姿も見られた。ボランティア研修を3回実施し、スーパーバイズの体制に取り組んだ。

② 縁庭プロジェクト

- ひきこもりやニートの若者を支援するNPO法人京都ARUとの共催で、テラスの花壇づくりを媒介とした交流プログラムを3回開催した。区役所1階でカフェをオープンしている“こぱん”に花壇の一部を貸し出し、一緒に水やりをするなど庭の運営に対する協力団体としての連携が得られた。

③ はじまるさろん(地域若者サポーター伏見ブロックとの共催事業)

- 事業へのサポーターの参加は固定化が見られるものの、「はじまるさろん」以外の外部機関の講演や研修、あるいは事業に参加するなど、サポーターとしての自覚や、スキルを高めようという意識が高まっている。事業参加者の獲得が課題である。

(3) 地域交流・連携・参画に関わる事業

青少年と地域社会を結ぶ事業＝ロビーの多目的利用

① つながりカフェの運営

- ロビーと料理室を活用した多世代交流のためのコミュニティカフェとして、ひとつの定期運営カフェは次年度以降、サポステの職業ふれあい事業としての位置づけで実施することになり、試行的な取り組みができた。持込み企画でも、新たなジャンルの企画が持ち込まれ、地域交流を目的に、青少年が地域でのイベントに出ていくきっかけともなった。また手づくり市の毎月1回の開催、つな画廊(ロビーギャラリー)での青少年や地域団体の活動発信の場を提供した。

地域パートナーシップ事業:地域の様々な団体や個人と協働した青年の地域参画をねらいとした事業

② 健康フェスタ

NPO法人CHARM、保健センター等と共催し、在住外国人のための健康フェアを実施した。

- NPO法人CHARM、伏見保健センター、京都市国際交流協会、伏見区社会福祉協議会との共催事業。地域課題である、様々な理由で医療や福祉に繋がりにくい外国籍住民及び青少年に、健康に関する情報を得、自分の健康状態を知り、診療に繋がる機会として啓発イベント型健康相談会を実施した。

③ママのためのリフレッシュカレッジ

育児に対する不安やストレスの発散、地域人材の活用と空き部屋活用をねらいとして実施した。

- 「はのんの会」との共催の乳幼児をもつ親支援ワークショップの開催に加え、新規で地域人材の活用と空き部屋活用も含め、若い世代の乳幼児の母親を対象にしたリフレッシュ的な単発ワークショップを複数開催した。大学生などによる託児体験も、夏から春にかけて継続的に提供することができた。

③伏見まるごと博物館

- 野外博物館構想をプラットフォームして、青少年の地域参画と多世代交流をはかる事業。今年度は「水」をテーマに、水に関わる仕事や、台風水害など水とどう関わるかなどを考えた地域でのイベント開催とともに、課題であった青少年の参画を増やすため、青少年グループとの共催事業も実施した。

(4)利用促進・発信・広報に関わる事業

人と情報が集まり、さまざまな活動が生まれるような協働の場の構築

①ふしみんUSTREAMスタジオの運営(ロビーの一角に設置した動画スタジオの運営)

- 外部講師を依頼せずにメディアパブスタジオのサポーター主導でワークショップを実施することができた。
- 地域と青少年をつなぐ事業、ワークショップの開催がそれぞれ1回に留まった。映像制作に関するワークショップを「地域と青少年をつなぐ事業」として位置付け、年複数回開催し、スタジオ利用も含め、メディアパブ事業を幅広く認知してもらい取り組みを行うことが課題である。

②インフォメーションノート“ふしみん”の発行(年間3回発行)

- 青少年ボランティアが、ページ内容の構成、取材、編集作業などを行った。積極的に地域での情報収集、取材に出かけ、若者目線での地域情報の発信を意識して主体的に作成している。

(5)相談情報提供事業

体験型事業:発達段階、生活環境、個別課題などに応じた移行期支援

①ロビーアクション

青年期特有の不安や興味を持つ青少年に対し、正確な情報と安心して葛藤できる体験の場を提供した。

- 3ヶ月間と比較的長いセクシャルヘルス事業や、ロビーワーカーの育成など、新たに取り組むことができた。
- カフェやもちつきなどで地域住民が多く来館し、センターの周知につながった。

気軽に利用できる場の提供

②フリータイム(予約なし、非占有の場を提供し利用者間の交流を促進する。)

- フリータイム利用者から新規交流事業の企画が生まれ、交流イベント(ごちゃまぜバスケット)を4回実施。また中会議室のフリータイム利用者が中心となり、自主事業「Break dance」の開催につながった。

③専用自習室の設置(センター利用への入口となる事業)

- 自習室は延べ人数が昨年を大幅に下回ったが、連日利用する人たちや定期テスト前などは依然として満席で利用制限時間内での交代をしてもらうことが多くあり、ニーズは高い。また、自習室のみを利用していた利用者がロビーアクションの参加者になるなどの広がりも見られた。

(6)就労支援に関する事業(職業ふれあい事業)

①「食の仕事のをぞいてみよう～伝統食カフェのお手伝い～」

- 未就労の青年を対象に、「日本の伝統食を考える会」の協力を得て、伝統食の調理から接客、配膳などカフェ運営を通して就労イメージを形成する体験事業。接客、カフェ運営する中で多世代間交流にもつながっている。

(7)学習支援事業

①STEP

- 生活保護世帯の中学生の学習支援活動を毎週1回、福祉事務所、BBSとの協働で開催した。参加者全員が高校進学をした。また、伏見区の保護課のケースワーカー15名程度を対象に、学習会についてと協会・青少年活動センターについての研修会を行い、連携を深めた。

②スタディプレイスふしみ(共催事業)

- 震災プロジェクト関連の継続支援として、青少年グループによる学習会支援を行った。

<行事一覧>

事業名	実施時期		回数	参加数 (のべ)	実施場所／備考
にはんご教室／月曜クラス	通年		41	(458)	内、ボランティア248人
にはんご教室／土曜クラス	通年		39	(604)	内、ボランティア280人
ボランティア説明会, 研修, 交流会	通年	※	11	(113)	(登録者数35人)
サラダボウルProject	通年	※	70	(1305)	説明会, 宿泊, カフェ, フェスタ, 内ボランティア登録者数26人
ちょこっとプログラム(居場所事業)	通年	※	25	21(236)	内ボランティア登録者数7人
ボランティア研修	8月,12月,3月		3	18	
縁庭プロジェクト(居場所事業)	通年	※	123	5(229)	交流会, 日々の水やり等含む
ロビーアクション	8月～3月	※	78	(1250)	掲示板利用人数含まず／中高生向け 事業／セクシャルヘルス事業／ロビー ワーカー養成等含む
STEP(中3学習支援)	通年	※	54	15(528)	BBS/学習支援ボランティア数含む
フリータイム	通年		301	(5519)	中会議室及びスポーツルームA
自習室開放事業	通年		308	(6302)	
職業ふれあい事業	1月	※	7	2(247)	カフェ来客数含む
つながりCafe	通年		63	(1285)	出店者・来客含む(仕込日含む)
手づくり市	通年: 毎月第2日曜		12	(1654)	出店者・来客含む(仕込日含む)
つな画廊(ロビーギャラリー)	5月～3月		105	(804)	
ふしみんメディアパブ	通年	※	62	(177)	ワークショップ・定期番組配信他
伏見の祭りプロジェクト	8月～2月	※	15	6(60)	参加者は大学生
健康フィエスタ	5月～12月	※	6	(198)	スタッフ会議含む
ノーバディーズパーフェクト	8月～9月		10	8(268)	内、ボランティア登録数14人, 延べ65人
伏見まるごと博物館	通年	※	57	(730)	イベント来場者含む
地域若者サポーター共催事業	10月～3月	※	11	(73)	
震災プロジェクト関連学習会 (共催事業)	通年	※	33	(336)	学習支援ボランティア数含む スタディプレイスふしみ

※印・・・回数・人数にボランティアミーティングを含む。参加者数欄の()は, 延べ人数

V. 収益等事業

京都市内を中心として活動する, 市民団体・地域団体・企業等に青少年活動センターを活動場所として利用していただいた。

一般利用数 41, 300人(全利用数の11. 8%)